尾瀬 燧ヶ岳に登る ①　2022 年 10 月 10 日（月祝）～12 日（水）

是非行きましょう、というのではなく、軽い気持ちで秋の尾瀬へ行く計画を立てたので、メールで LMC 会員に送って見てもらったところ、実行する前提で賛同者が集まってしまいました。

そこで、具体的にできた行程が別紙の２泊３日の計画書です。

一日目。浅草駅 9 時 30 分発 東武鉄道の特急リバティー会津 113 号に乗車。直通運転されている野岩鉄道の会津高原尾瀬口駅で下車し、駅前から会津バスに乗り約 2 時間。途中、御池の駐車場に 10 分位停車して、終点の尾瀬沼山峠に 14 時 35 分に着きました。

東武特急リバティー会津の顔

← 会津高原尾瀬口駅舎

→ 駅につながった食堂兼売店

バスが発車した時には先客が一人いたが、舘岩で降りてからは終点まで、我々５人で貸し切り状態になった。

尾瀬沼山峠のバス停。一般車はここまで入ってくることができない。

中央のバスに乗ってきた。

休憩所で準備して、出発。→写真

バス停の一番奥に、登山口がある。

ここから 1 時間ほどで尾瀬沼畔の山小屋に着く。

沼山峠の最高地点までの道。約 700 メートル、なだらかに登る。

沼山峠の最高地点。標識は立っていない。あとは下るのみ。

そこから少し行くと、尾瀬沼がちらりと見える展望台がある。

樹林帯が終わるところに鹿除けの柵がある。そこを抜けると大江湿原に入る。

大江湿原の美しい草紅葉の中を、のんびりと歩く。あと 20 分も歩けば山小屋だ。

ほかに登山者がいないから、こんな風に話しながら歩くことができる。

大江湿原の中の木道を進み、小淵沢田代分岐に着いた。

← 大江湿原はもうすぐ終わり。道標は沼尻への分岐点を示す。

大江湿原の木道で見付けた表示板。「土塁跡」と読めるが、会津沼田街道時代の名残か。

この案内板は、尾瀬案内パンフレットなどによく載っている。

今日の宿、尾瀬沼ヒュッテ目の前の林の中にある。あと５分もかからない。

尾瀬沼ヒュッテに着いた。予定通り 16 時丁度。今日の行程はここで終わり。

夕食中、食堂の窓から見えた燧ヶ岳。あした天気になーれ。

（写真：阪西・成田・勝沼）

2022 年 10 月 10 日　（つづく）

尾瀬 燧ヶ岳に登る ②　2022 年 10 月 10 日（月祝）～12 日（水）

二日目。６時から朝食だというので、５時に起きて外を見ると晴れています。出発の準備を整えて、朝食前に尾瀬沼の畔まで行ってみました。

陽は未だ燧ヶ岳の頂まで達せず、裾野には霧が流れています。快適な山歩きの予感が……。

朝食前、小屋のサンダルのまま、尾瀬沼畔まで行ってみた。

食事を終えて、食堂の窓から見ると燧ヶ岳に朝陽が射している。

人影は小さいが左から、星さん・成田さん・川村さん。

鹿除けの柵を抜けて進む。

１合目あたりで小休止。

４合目までやってきた。予定より遅れているが、まだ余裕の笑顔。

６合目付近で。靴底剥がれの修理中。俎嵓がきれいに見えている。

８合目までやってきた。あと一息で山頂だ。

燧ヶ岳俎嵓山頂から尾瀬沼を見下ろす。中央に見えるミノブチ岳を越えてきた。

俎嵓山頂より、方向を変えると尾瀬ヶ原とその向こうに至仏山が見える。

← 山頂に着いた時点で２時間近く遅れていたので、柴安嵓往復は割愛。昼食のおにぎり弁当を食べ、そこにいた人に頼んで、記念写真のシャッターを押してもらった。

熊沢田代。予定到着時間からは約１時間遅れているが、この区間はほぼ予定コースタイムで着いた。この調子なら、最終バスに間に合うだろう。広々とした気持ちの良い場所だが、ゆっくりはしていられない。

下山を始めたが、厳しい下りが待っていた。

熊沢田代からは一段と下りの段差が厳しくなってペースが落ち、予定の２倍強の時間を費やすことに。結局、御池到着時は真っ暗になって、最終バスに間に合わなかった。

迎えに来てくれた宿の車が、左の写真の場所でライトを点けて全員の到着を待ってくれた。

燧裏林道に交わるところ。

ここが御池からの登山口。

宿に入って食事を終え、ホッとしてくつろぐメンバー。

2022 年 10 月 11 日　（つづく）

尾瀬 燧ヶ岳に登る ③　2022 年 10 月 10 日（月祝）～12 日（水）

三日目。８時からの朝食後、檜枝岐村の散策に出ました。道路は広いとは言えないし歩道もないけれど、車の通行量は少なくて、危ないと思うことなく歩くことができました。空は晴れているのに、空気が冷たく感じらます。標高 1,000 メートル近い高地だからでしょうか。

村内の道路。右の建物が今回の宿「かどや」さん。下の写真は、同じところを下手から見たもので中央が「かどや」さん。

集落に戻ってきた。この看板のある所から左に入ると、いろいろな見どころがある。

檜枝岐歌舞伎の舞台。兜造りの建物は、国指定有形民俗文化財になっている。

今回、宿をお願いした「かどや」さん。バス便が無くなった我々を気持ちよく迎えに来てくださったご夫妻に感謝申し上げ、報告を終わりとします。

ご主人が打った裁ち蕎麦は絶品で、是非、また食べに行こうと思っています。

檜枝岐村は、檜枝岐川の左岸を通っている国道 352 号線沿いに、民家と、この辺りでは廟所と呼ばれているという墓所が混在して並び建っている。

上流側に向かってしばらく歩くと集落は尽きる。橋の上から右写真のような景色を見ることができる。

ストックをもって散歩している人を見たが、羨ましい環境だ。

上の写真、左手からミニ尾瀬公園に向かって山裾に、登山道の雰囲気を持つ道が延びている。

左写真は、ミニ尾瀬公園内の施設「尾瀬写真美術館」だが、水曜日は休館日で見ることができなかった。

ミニ尾瀬公園内に祀られている「山の神」と、「夏の思い出」の歌詞と楽譜が刻まれた石碑。ボタンを押すと大音量で曲が流れ出してくる。左写真は、板倉と呼ばれるもの。数種類の作り方のものが移築され、それぞれの説明板が立っていた。

「橋場のばんば」という、切れない鋏を供えて良縁をつなぎ、よく切れる鋏を供えれば悪縁を切ってくれる神様、その隣には「叶った像」が祀られてやはり鋏が供えられている。短い参道を進むと、鳥居があり、村の鎮守神が祀られた社がある。

鎮守様の境内に入る鳥居。左手の建物は有名な檜枝岐歌舞伎の舞台。

舞台の正面には石段で築かれた、観覧席が半円形に作られていた。

鎮守の森を出て道を少し下ると六地蔵が立っている。由来の書かれた石碑を読むと、飢饉のときに働けない者ということで間引かれた幼子たちの霊を慰めるためのものだと。

後ろには板倉がある。火災から大事なものを生活の場とは別に保管して、守る為のものだったという。

集落を歩いていると、ブリキで覆われたりしてあちこちにまだたくさん残っていた。

おわりに　自分たちの年齢による体力を考えて、一般的なコースタイムより登りは２～３割増し、下りは１～２割増しで計画したのでしたが、下山路の段差が大きいことが遅れの原因となりました。靴底の剥がれを補修しながら、ということもあったけれども、途中からヘッドランプを使用しなければならなくなったのは、コース選定が間違っていたと反省しているところです。宿に申告した到着予定時間が迫ってきたときは、到着しないのを心配して、遭難騒ぎになるのではないかとひやひやしたものでした。

全山紅葉というのには少し早すぎましたが天候が良く、燧ヶ岳山頂からの尾瀬沼と、尾瀬ヶ原の向こうに至仏山、そして福島県・群馬県・新潟県など周囲の山々を見渡すことができ、良い山旅であったと、今は言えます。　（2022 年 10 月 12 日　勝沼）